

まんが 子ども太平洋戦争物語

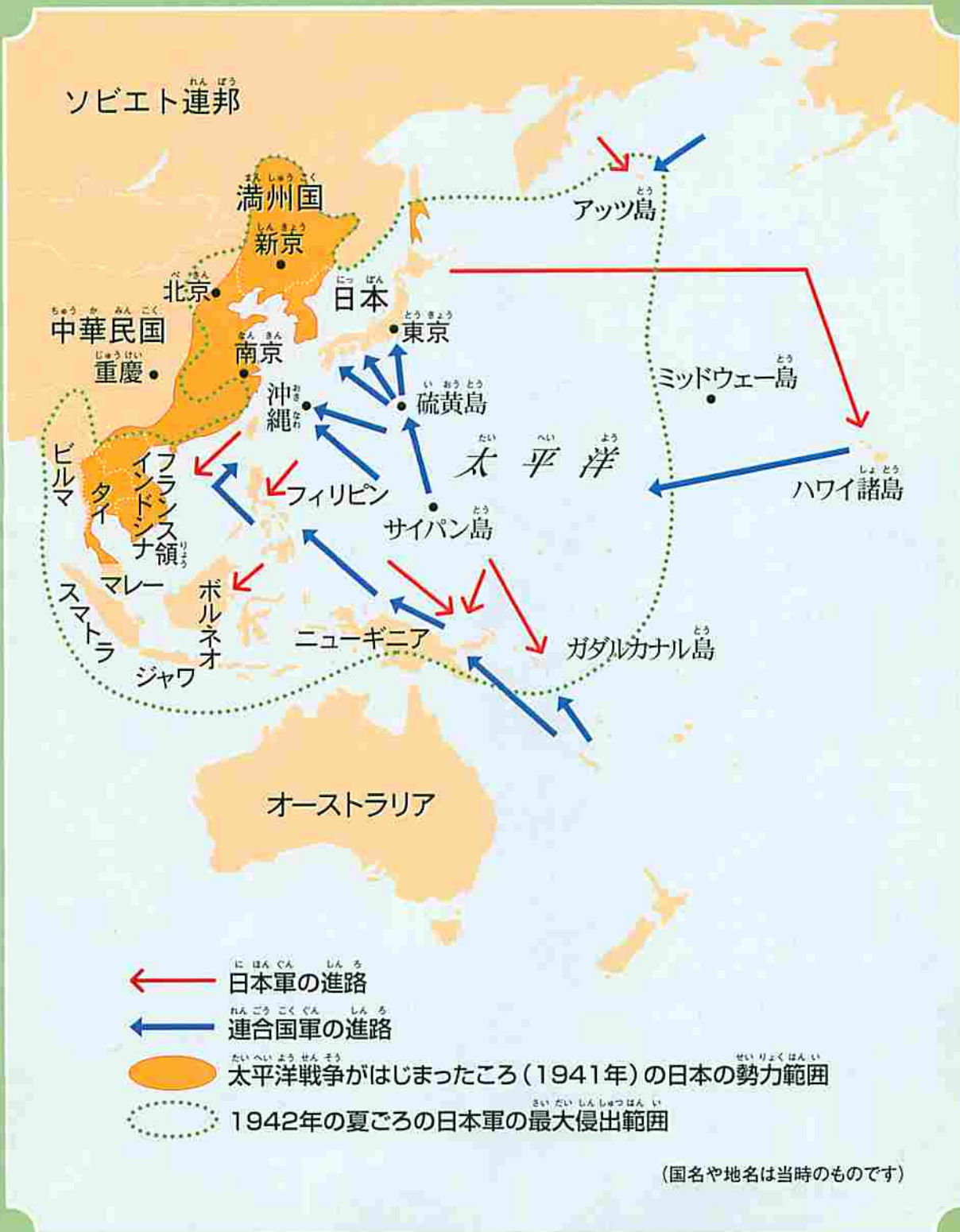
明日に生きる



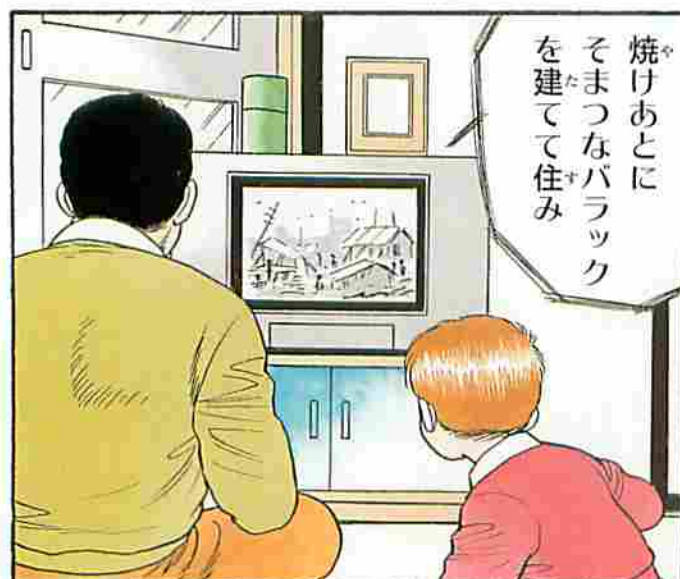
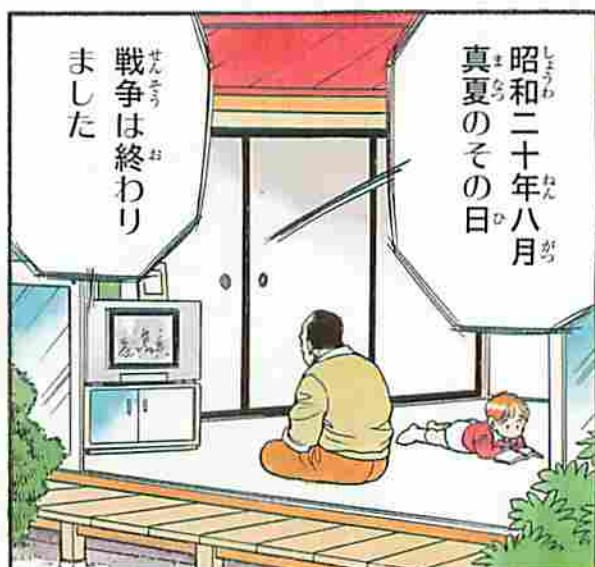
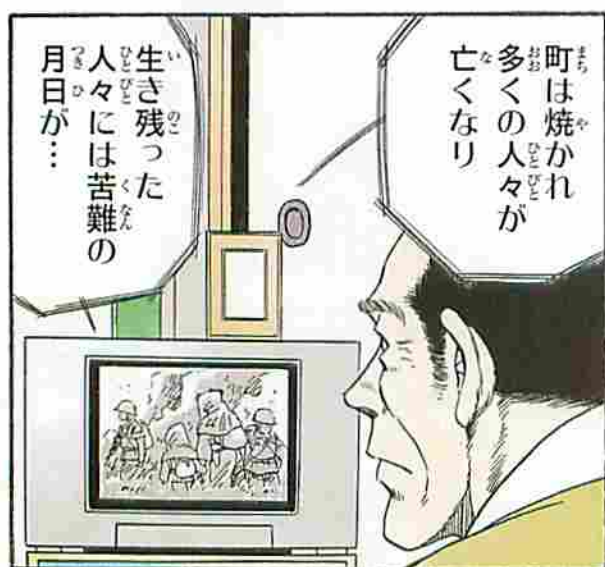
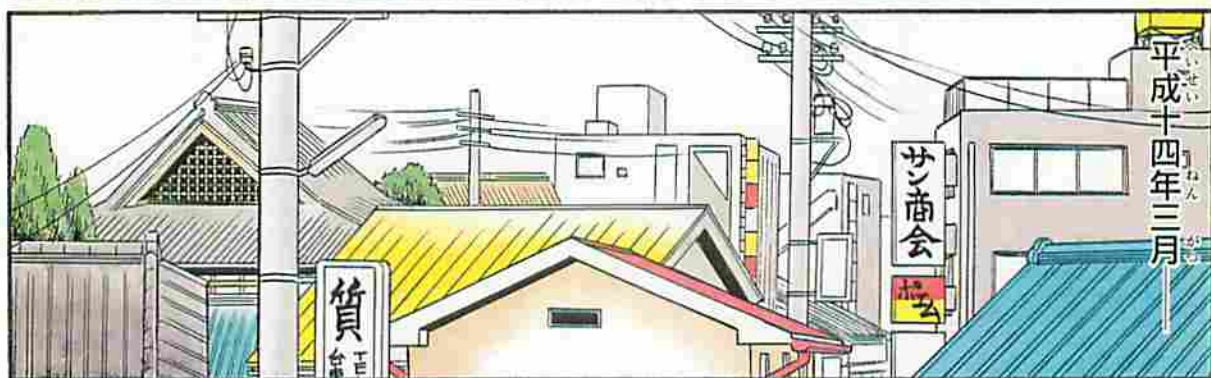
画 守谷哲己

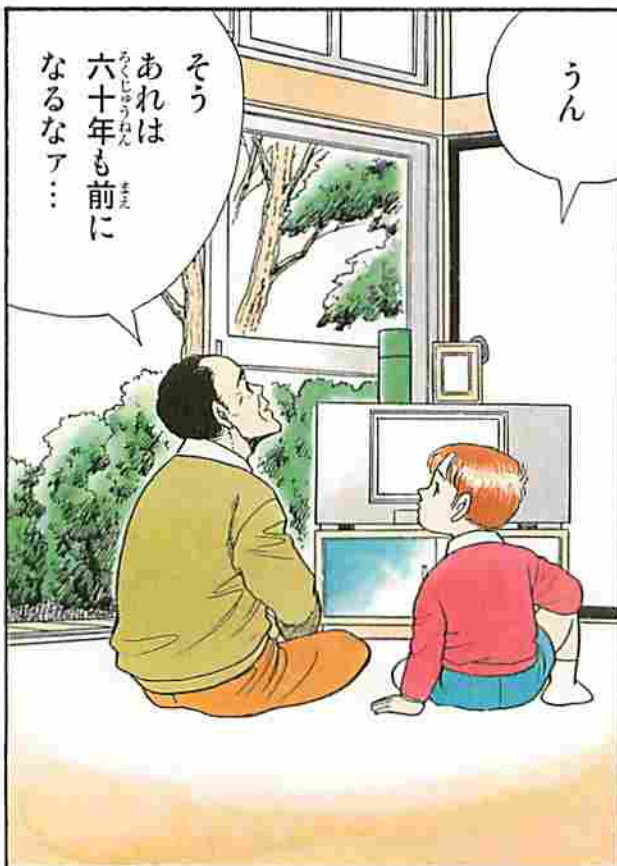
たい へい よう せん そう ち ず

太平洋戦争地図



第1章 思い出のとびら



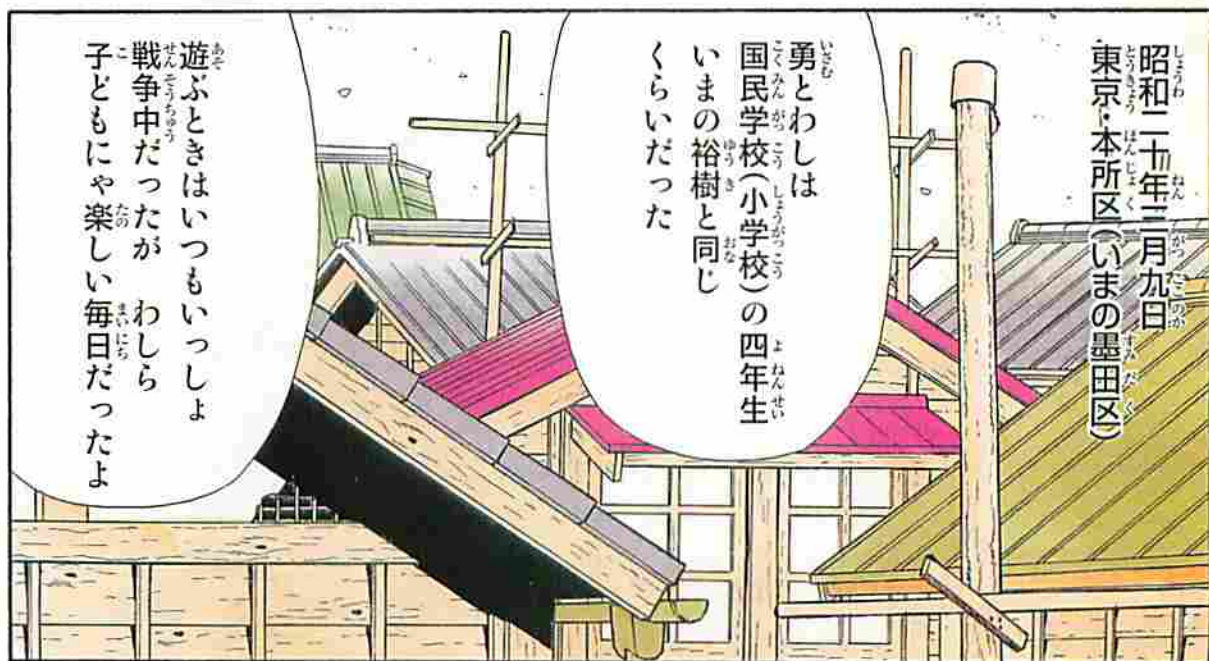


第2章 悪夢のはじまり

昭和二十年二月九日
東京・本所区(いまの墨田区)

勇とわしは
国民学校(小学校)の四年生
いまの裕樹と同じ
くらいだった

遊ぶときはいつもいっしょ
戦争中だったが、わしら
子どもにや楽しい毎日だったよ



勇ちゃん
お母さん 今夜
うちに泊まっても
いいって!

本当!?
おばさん

わあい
今夜はふたりで
寝られるぞ!



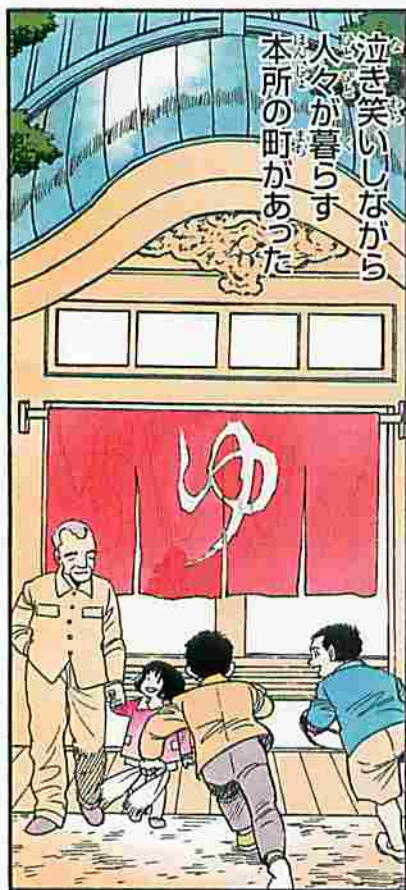




ふたりとも
すぐ夕ごはんよ

そのへん片つけて
お風呂へ行って
らっしゃい!

はあーい!



泣き笑いしながら
人々が暮らす
本所の町があった



いつもど変わら
いつもどおりの
姿で



この目
東京の下町
本所は
たしかにあった



いつまでも
この生活が続くと
信じていたんだ



イモアメ

サツマイモでつくったイモアメは素ほくな味がする駄菓子です。いまも売られています。が、当時は貴重なものでした。

戦争中のおやつといえは、サツマイモをふかしたものが多く、お汁こや大福などは特別なことがない限り食べられません。戦争の状況が悪くなるにつれ、船で遠くから品物を運んでくるのがむずかしくなり、一般の家庭では砂糖が手に入りにくくなったからです。

砂糖は配給制になり、店先にならぶことはなかった。



三月十日午前〇時八分
 深川区(いまの江東区)
 木場二丁目に初めの
 焼夷弾が落ちた



なんだ？

空襲か？

警報は
 鳴ってない
 ぞ!?



ああっ

わああっ



あ
 あれ!

ん？



なにが
 あったん
 ですか？

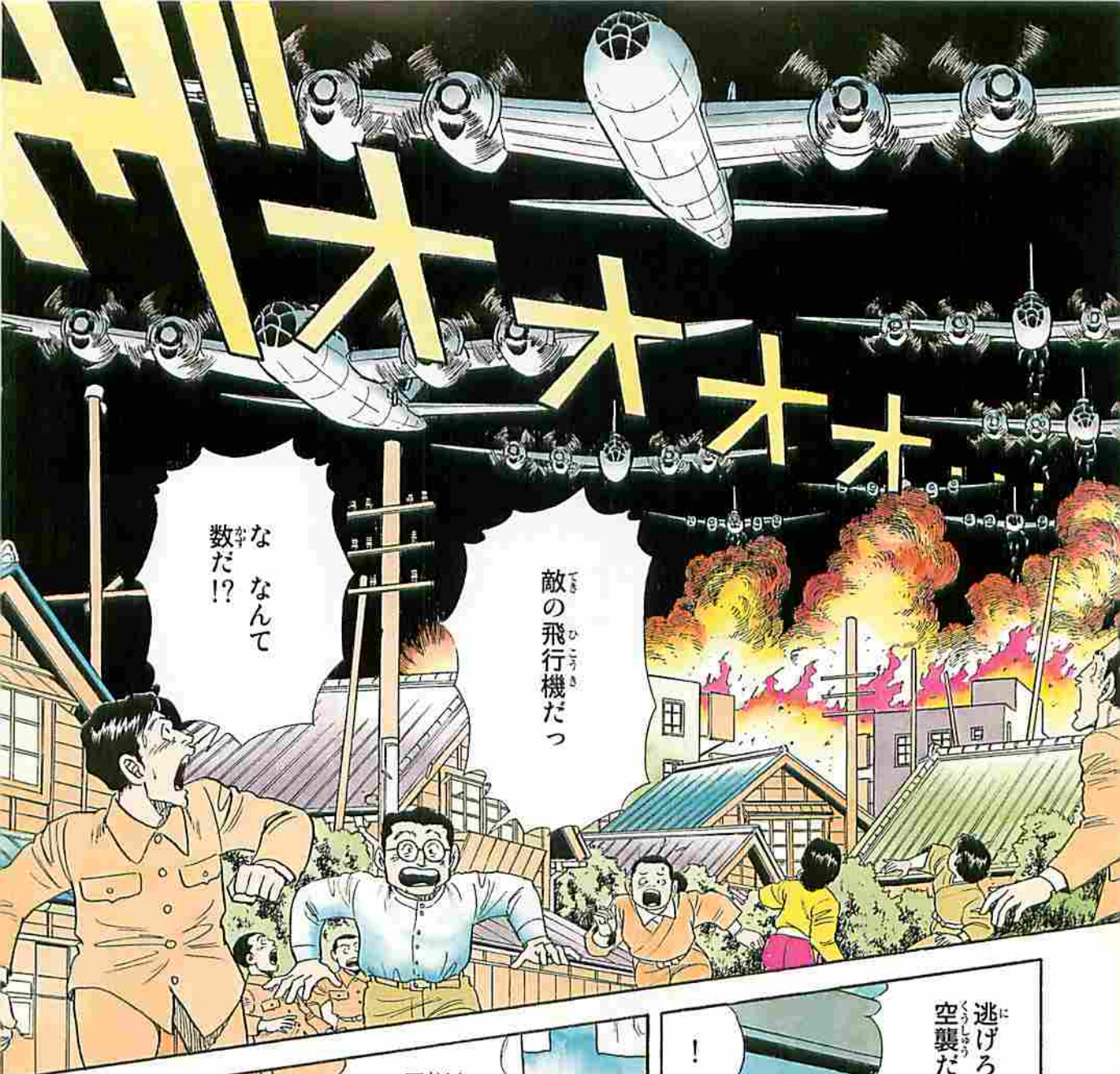
さあ
 なんてしようね

空襲警報

敵の飛行機が近づいてきていることがわかると、サイレンを鳴らして危険を知らせました。これを空襲警報といいます。警報が鳴ると人々は急いで避難しました。夜も空襲されるようになります、すぐ逃げられるように服を着たまま寝るようになりました。東京大空襲のときは、爆撃がはじまって七分後に警報が鳴りました。このわずか数分の遅れが、そこに住む人々にとっては生死を分ける決定的な時間になったといわれています。



防空こうやのき下で空襲警報が解除されるのを待つ人々。



な
なんて
数だ!?

敵の飛行機だつ



健二!
勇くん!

はやく起きて
防空ごうへ入る
のよ!!

あん...?



逃げるオ!
空襲だああつ

午前〇時十五分
空襲警報が出された

オオオオオオ

わあっ
すごい火事だ！

空がまっ赤に
燃えてる！！



向こうは
火の海だ！

逃げるなら
隅田川の方が
いいぞ！

ありがとう
ございます！



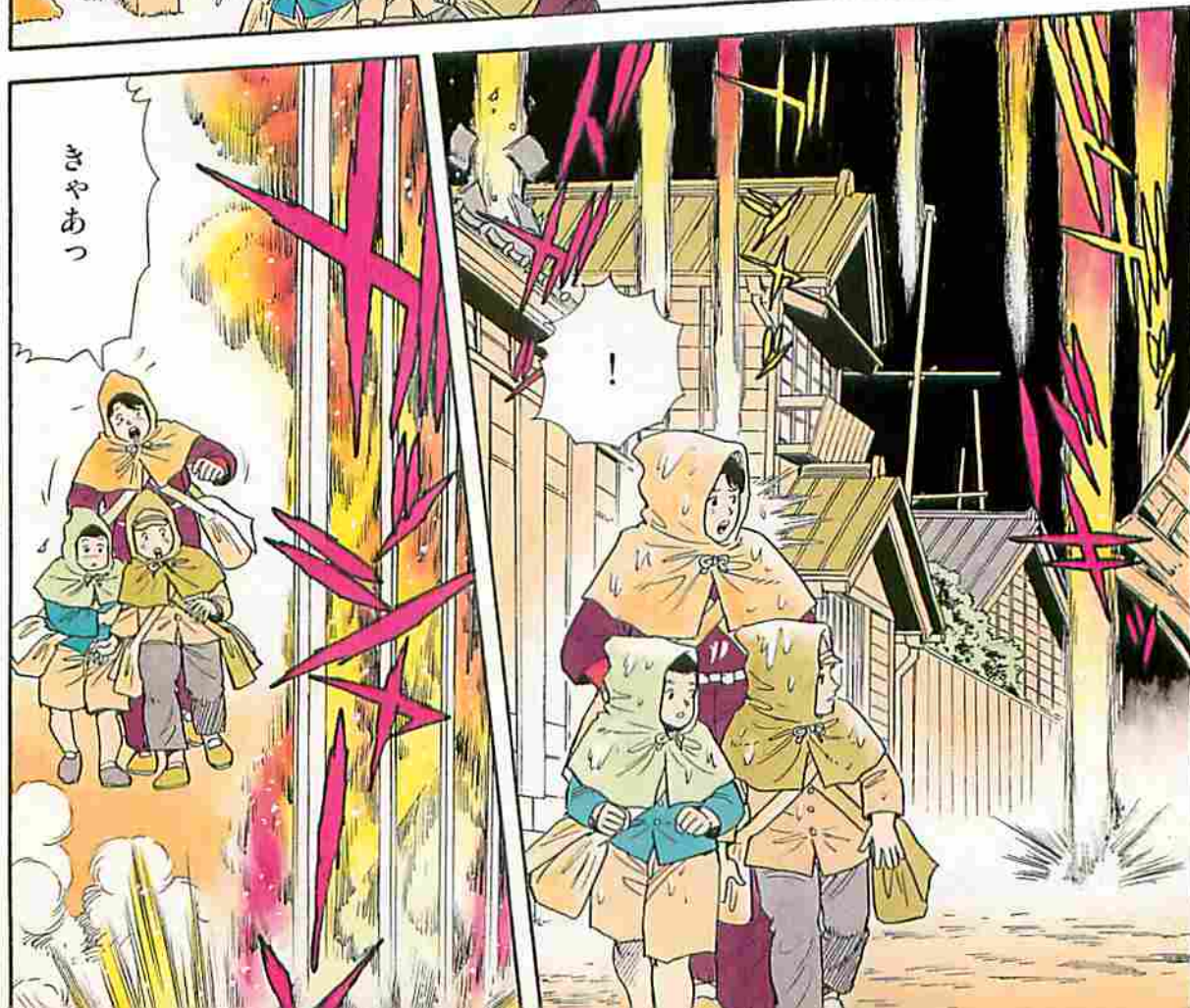
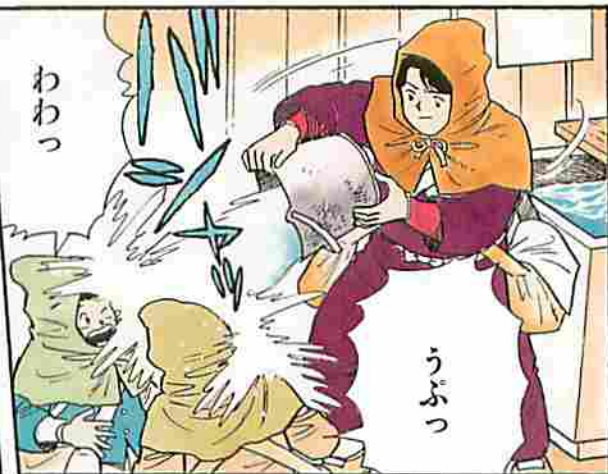
防空ごうは
あきらめましょう
川まで走るのよ！

あついよ
母ちゃん

そうだ
ふたりとも
水をかぶって

そうすれば
火や熱を少しは
防げるわ！







カカカカ

急いで！

逃げるのよ！！

わああつ



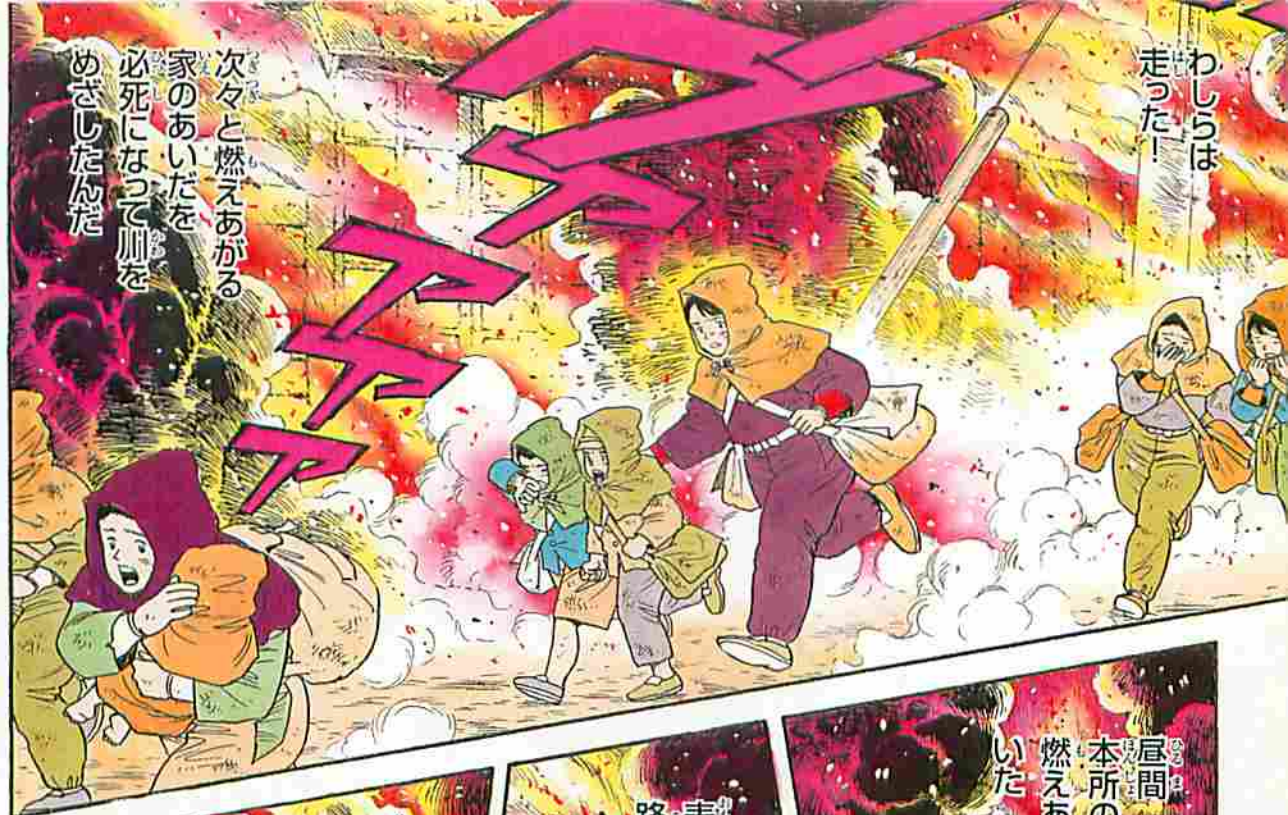
空から落ちてきたのはアメリカのB-29爆撃機が落とされた焼夷弾だった

わしも勇も本心に肝をつぶしたよ

カカカ

わしらは
走った!

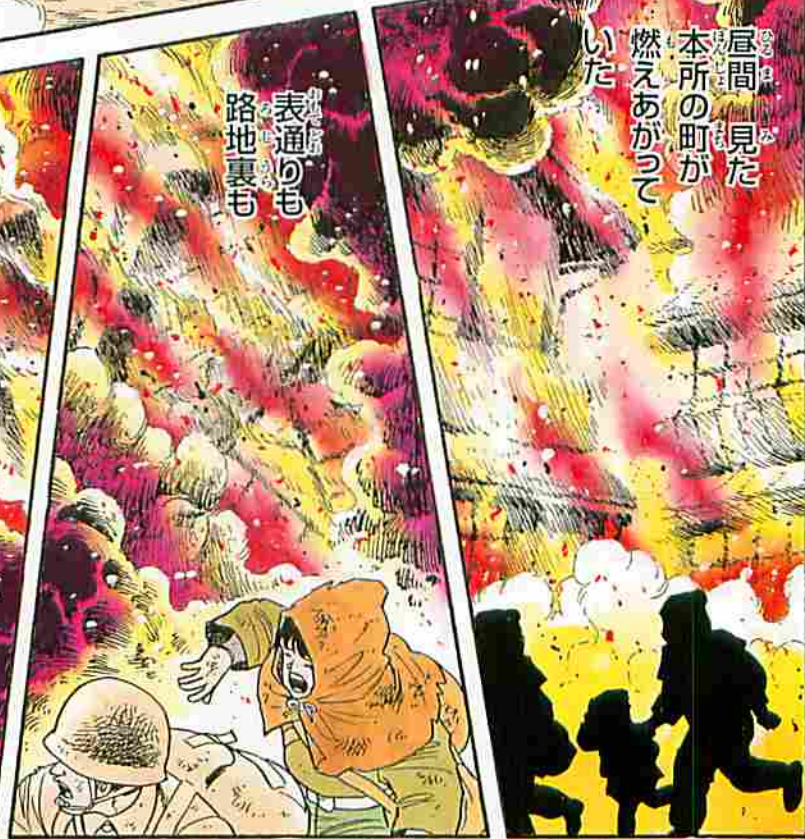
次々と燃えあがる
家のあいだを
必死になって川を
めざしたんだ



昼間見た
本所の町が
燃えあがって
いた

表通りも
路地裏も

お風呂屋さんも
みんな燃えて
いた



防空ずきん

防空ずきんは江戸時代の消防服からヒントをえたといわれています。古い布に綿を厚く入れ、肩まで保護できるよう少し大きめにつくるのがよいと当時の新聞などで紹介されました。

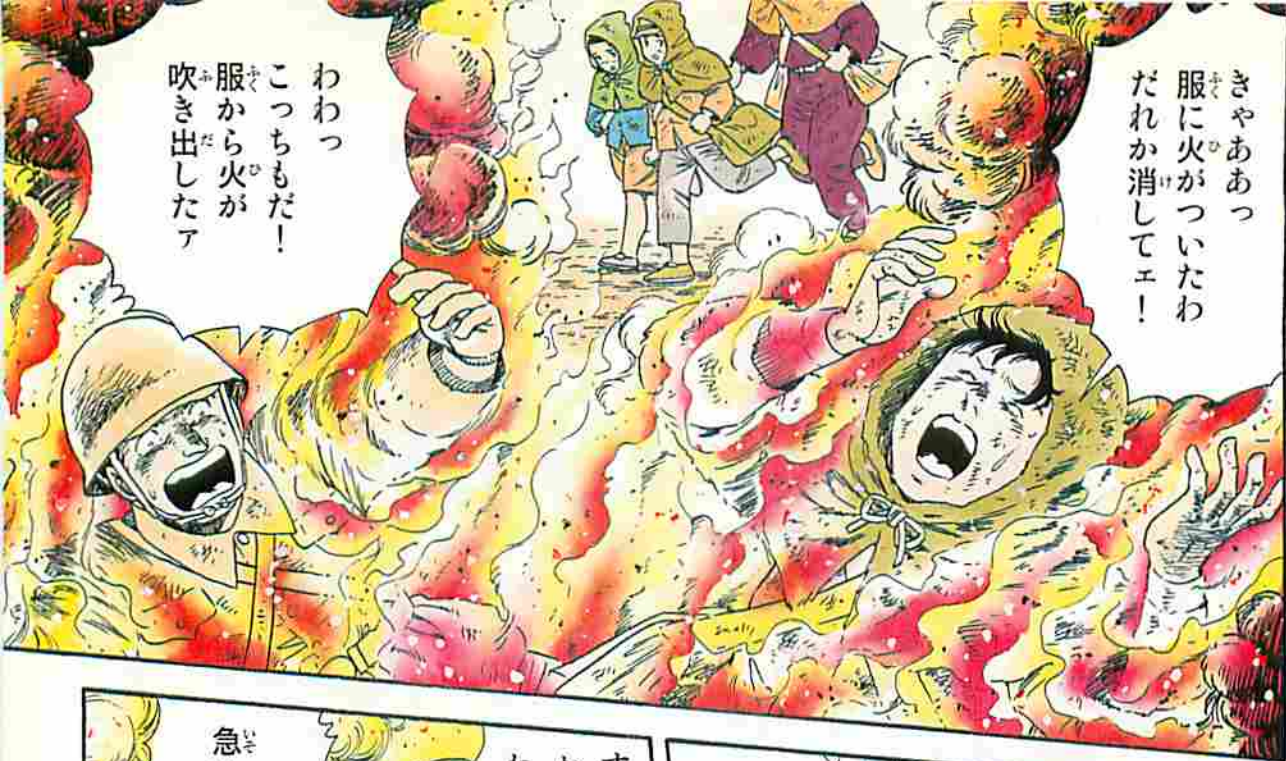
空襲をうけたとき、火の粉や爆風、飛び散るガラスのかけらなどでやけどやケガをしないよう、外出には防空ずきんが手放せませんでした。水につけてかぶれば火からある程度は身を守れたうえ、綿が入っていたので冬には防寒帽としても役立ちました。



子どもたちが身につけた防空ずきんと救急袋。

きやああつ
服まきに火ひがついたわ
だれか消けしてエ!

わわっ
こっちもだ!
服まきから火ひが
吹き出したア



熱あつで服まきに
火ひがついたんだ!

水みづをかぶって
おいてよかった

すぐ服まきも
かわいてしまう
わよ

急いそいで!



隅田川すみだがわだよ
母ちゃん!

はやく
水みづに入り
ましよう!

川かわはいかんぞ
川かわに入ったやつは
みんな死しんだ!



川のある町

東京の本所・深川地区(いまの墨田区・江東区)には隅田川すみだがわ、大横川おほよこがわなど、いくつもの川が流れていました。これらの川は東京大空襲のときに、火や熱から多くの人々を救いましたが、同時に川でおぼれて死んだ人も大勢いました。川で亡くなり、そのまま東京湾に流されてしまい、遺体が見つからなかった人も多かったといわれています。

平和な時代には、仕事や遊びで川と親しんでいた下町の人たちにとっては、なんとも皮肉な結果となりました。



多くの家が焼けてしまった東京の下町。中央を横切るのは隅田川。



そんな…
それじゃどこへ
逃げろって
いうのよ?

学校だ
みんな小学校へ
逃げている!

もうすぐここも
火の海になる
急いで行きな
さい!



ふたりの命は
あんたのがんばりに
かかっているんだよ



学校って…
向こうも
火の海じゃ
ないの!?

子どもたちを
死なせたくない
なら行くんだ
奥さん!



こらっ
川に入ったら
死ぬぞ!

学校へ行け
みんな急いで



生きのびる
んだぞ!



あの人
あそこに
いたら

じき火に
つまれて
しまうぞ



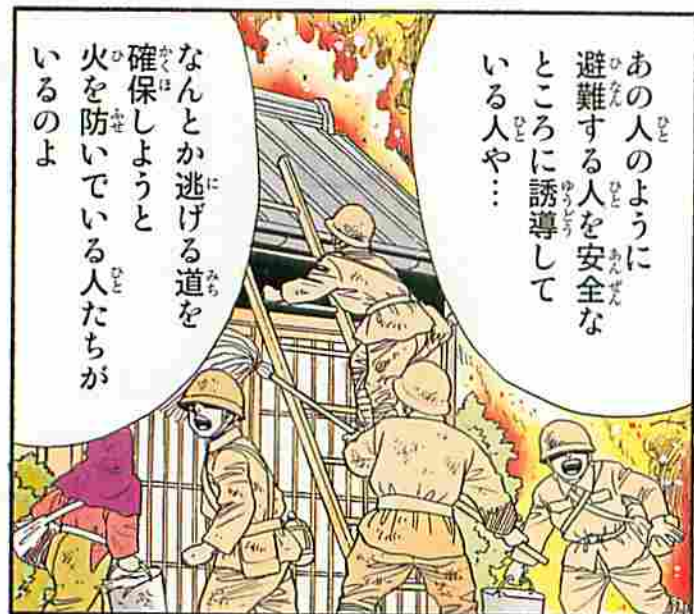
あの人は川に来る人たちを学校へ行くように案内をしてより多くの人を助けようとして

それが自分の仕事と決めて命をかけて働いているんだわ



よく見てもらいなさい

こんなときにも火に追われて逃がれている人ばかりじゃないわ



あの人のように避難する人を安全なところに誘導している人や：

なんとか逃げる道を確保しようと火を防いでいる人たちがいるのよ



あなたたちもよく覚えておくのよ

大きくなったときあの人のために働けるようになろう！

うん！



この先も大変だけどがんばるのよ！

さっ、あの人のための努力をムダにしないために、私たちは生きのびなくては！

はい

わかった！

別々の場所で燃えあがっていた火がひとつになり、やがて大きな火の川の流れるようになった

火は日本橋の方に広がりさらには隅田川をこえ向島を焼きはじめた



地上の大火災にあおられ風はさらに勢いを増し瞬間風速二十五メートル以上になった

ひらり

おかあさーん助けてええっ！



東京の空襲

昭和十七年四月十八日、東京は初めて空襲をうけました。アメリカ軍による空襲が本格的になったのは、昭和十九年十二月二十四日からです。戦争が終わるまでに東京は百二十回の空襲をうけ、多くの被害をだしました。

なかでも、昭和二十年三月十日の「東京大空襲」では、大きな被害をだし、死者は八万三千人とも、実際は十万人を超えたともいわれ、正確な数字はいまもわかっていません。



たび重なる空襲で東京は大きな被害をうけた。

ああーっ

きゃああーっ

ああっ
またあれだ！

危ないっ
どこかに
かくれないと！



健ちゃん

勇ちゃん!!

あっ





ああつ



勇ちゃん
はやく火を
消さなきゃ！

勇ちゃん
しっかり
してっ



服についた油が
燃えている！



わああつ

あわてないで
落ちつくのよ！

油をふきとり
なさい！



勇ちゃん！

おばさん
ぼく…目が
目が見えない
んだ



学校へ行けば
手当てをして
くれるはずだわ

それまで
これでガマン
してね

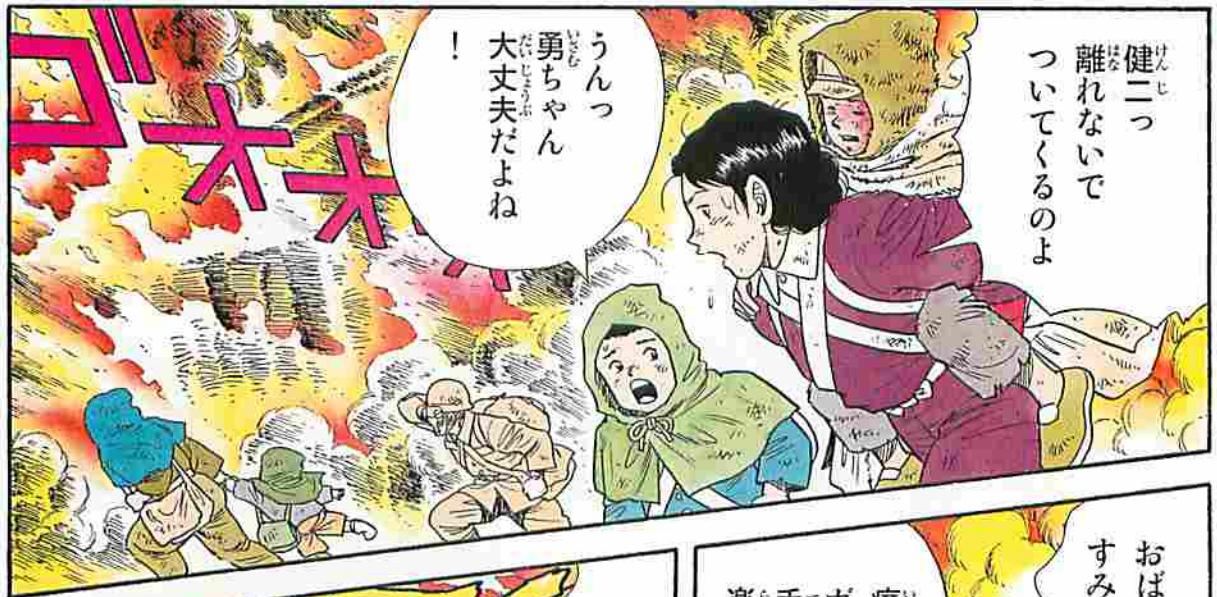


勇ちゃん
おばさんに
おぶさって！

とにかくはやく
学校へ行かなく
ちゃ！



勇ちゃん！



健二つ
離れないで
ついてくるのよ

うんっ
勇ちゃん
大丈夫だね



おばさん
すみません

痛いでしょうけど
ガマンするのよ！
手当てをしてもらえば
楽になるからね！

急ぎましょ！



焼け野原になった東京の空を飛ぶB29。

無差別爆撃
はじめのころ、空襲をうけたのは兵器をつくる工場が中心でした。ところが昭和二十年三月十日の東京大空襲を境に、ならった町を焼きつくす無差別な攻撃に変わりました。工場があるなしかかわらず、人がたくさん住んでいるというだけの理由で空襲されるようになったのです。大きな町は次々と無差別爆撃をうけて焼け野原となり、お年寄りや女の人、そして子どもたちがたくさん死にました。

午前二時三十七分
アメリカ空軍の猛爆撃も終わり
空襲警報は解除された

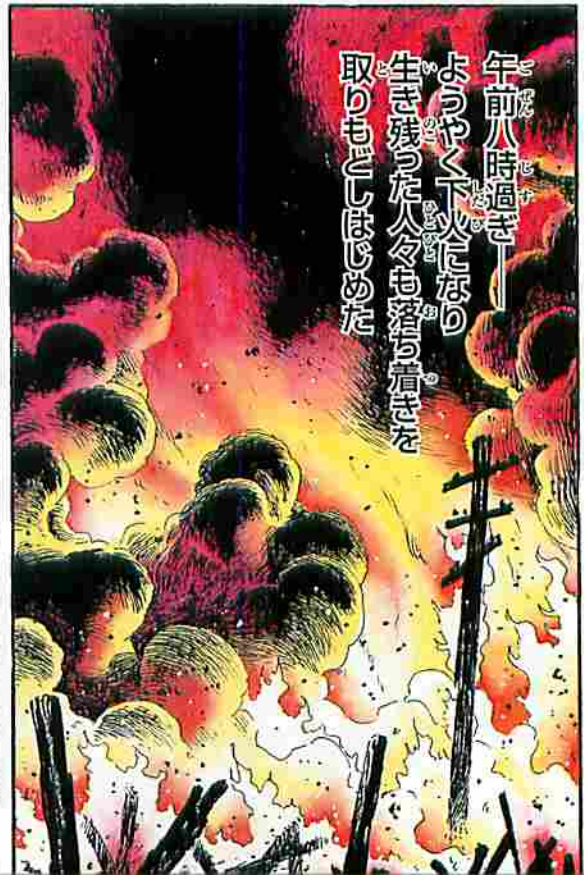
しかし・大火災はおさまらず
夜明けまで火の勢いは
おとろえることなく
町や人々を焼きつくした



午前八時過ぎ
ようやく下火になり
生き残った人々も寝る積みを
取りもどしはじめた

勇ちゃん
火はおさまった
よ

もう大丈夫
だから…ね





町はみんな
焼けちゃって…

ぼくらの
知ってる町は
もうないよ



ぐうっ
うっ



原っぱにかくした
おれたちの宝物も
燃えちゃまったの
かなア…

ん…
たぶんね



ヤケドが
ひどいし
出血も多
すぎる…

あと数時間
もつまい

そんな…



痛むの？

うん…
すつごく
痛い…よ

メンコ

人気力士や勇ましい武將など、子どもたちのヒーローが厚紙に描かれたメンコは、当時の男の子にとって宝物でした。地域によっては、「バツチン」、「ベッターン」と呼ばれ、かたちは丸いものと長方形のものがありました。

数人でメンコを地面に打ちつけて、相手の札を裏返したり、その下に入れた子が勝ちになる遊び方をしました。勝つと相手の札をもらえたので強い子のポケットはいつもメンコでふくらんでいたのです。



数少ないオモチャだったメンコ。

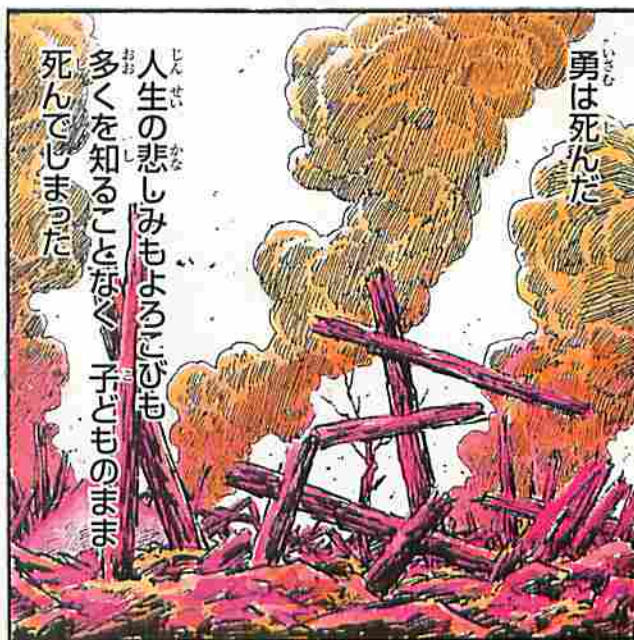




勇ちゃん!?



毎日 ふたりで
遊んでいたのに
突然 その相手が
いなくなつて
しまったんだ…
とばかりにいて
あたりまえだった
勇を失つて はじめて
わしは人の死を理解
したような気がする



勇は死んだ
人生の悲しみもよろこびも
多くを知ることなく 子どものまま
死んでしまった

戦災孤児

戦争で家も両親も失つた子どものことを戦災孤児と呼びました。この子たちの多くは親せきに引き取られましたが、だれも頼る人がいない子どもも大勢いました。

そういう子どもは焼け残ったたてものや駅の地下道などで寝起きし、クツミがきや新聞売りなど、子どもにできることは何でもしてその日の飢えをしのぎました。その子たちは心に深い傷を負つたうえ、大人でさえ生活するのが大変な時代に、たったひとりで生きていかなければならなかったのです。



生きていくためにクツミがきをする戦災孤児。

第3章 贈られた勇気



そのあと 小学校で
知り合いの人に勇の
家族がみんな川で死んで
しまったと聞かされた

勇ちゃん
天国で家族と
会えたのか
なア：

そうね
きつと会えた
と思うわ



死んだ人たち
を焼いて
いるのよ

あれは…？



これから
どうするの？

そうね ます
罹災証明書を
もらって 配給の
列にならびましょ

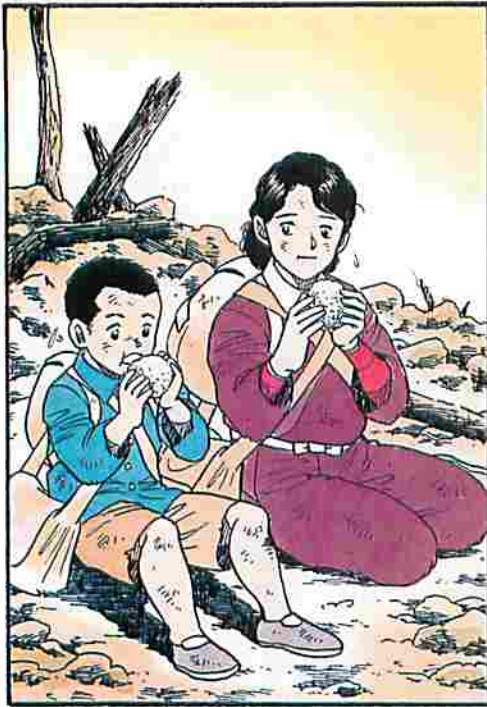
罹災証明書

空襲で家を焼かれた人は、それを証明する書類を見せると乗車券を優先して発行してもらえたり、避難先でも配給がうけられました。このころは食べ物や日用品をお店で自由に買えなかったため、焼けて出されるとすぐに罹災証明書が必要でした。

役所も空襲で焼けてしまった町では、焼け跡に机を並べて証明書を発行しました。なかには戸籍簿も燃えてしまつて確認する方法がないまま、申し込みに来た人のいうとおり、住所、名前、年齢、家族の数を書いて渡すこともありました。

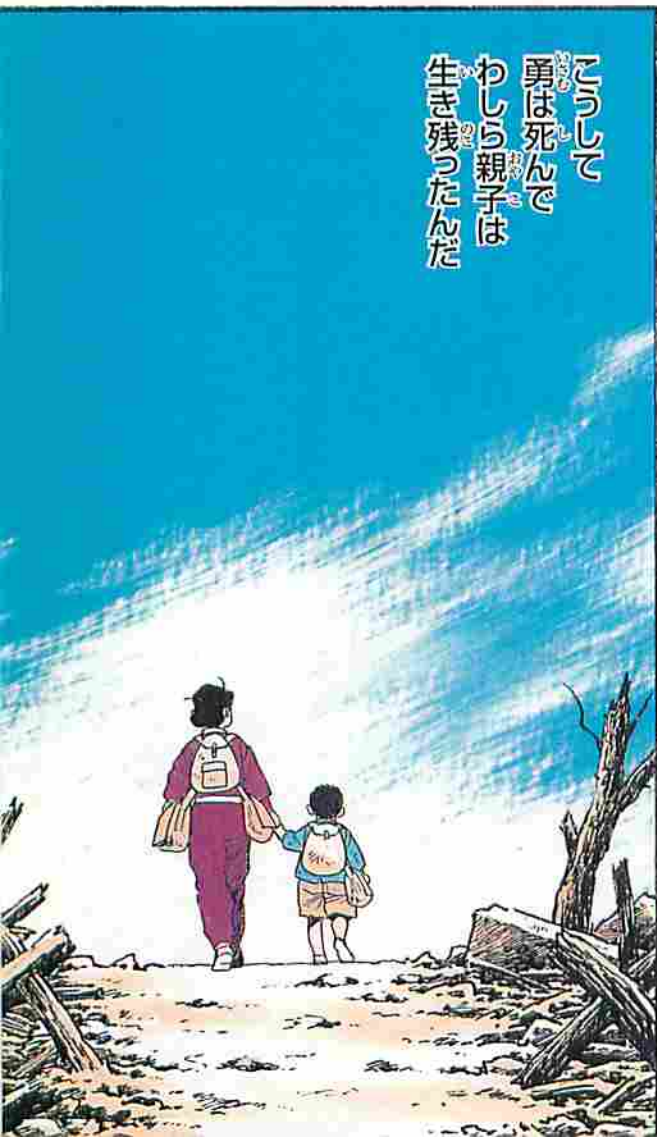


罹災証明書は
焼け出されてすぐ
必要になった。

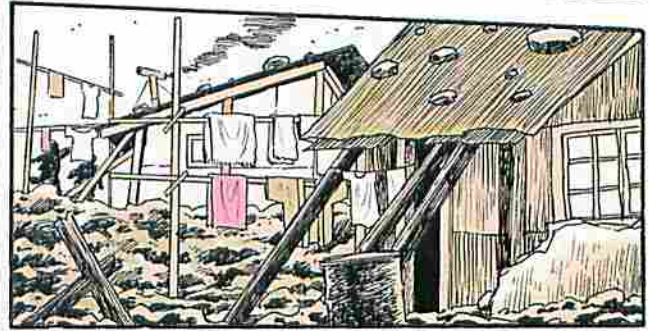
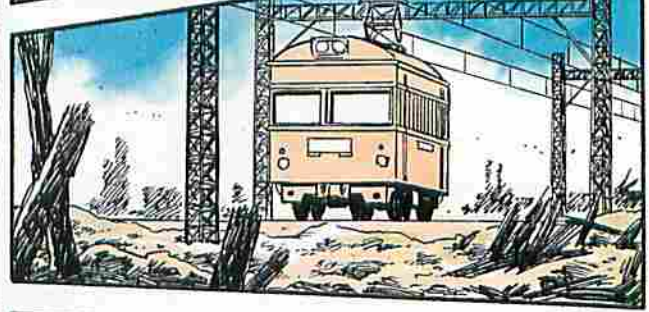


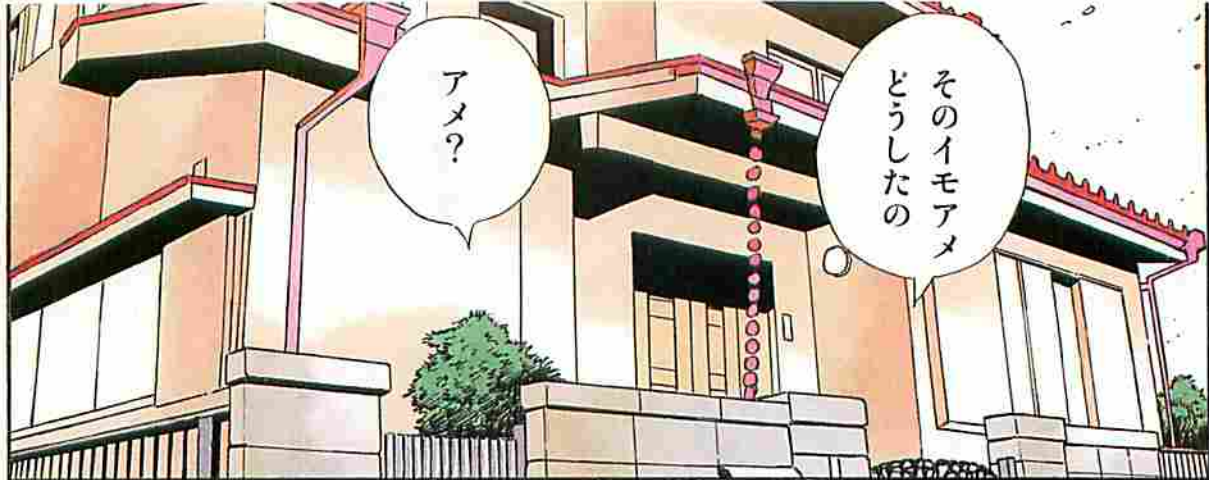
せっかく
助かったんだ
がんばって
生きていくんだ!

そら 乾パンだよ
にぎり飯もある
食べて元気を
出してくれ!



こうして
勇は死んで
わしら親子は
生き残ったんだ





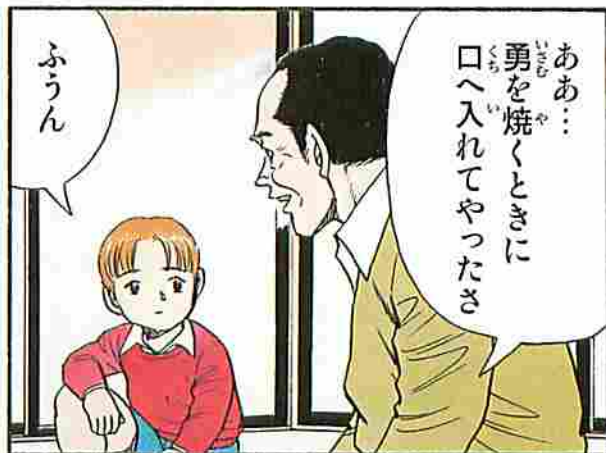
そのイモアメ
どうしたの

アメ？



わしも少し
なめてからな

甘くておいしい
イモアメだったよ



ああ…
勇を焼くときに
口へ入れてやったさ

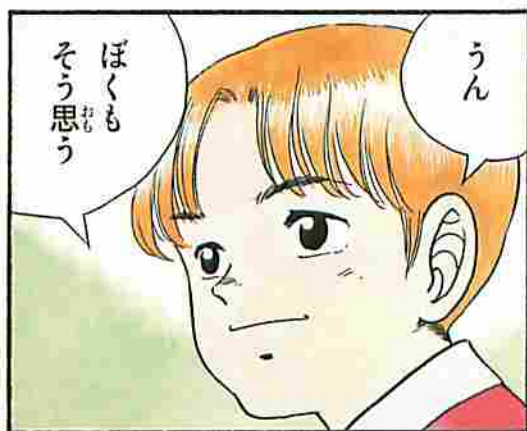
ふうん



戦争って町がなく
なっちゃうんだね

そうさ
町も焼け
多くの人が
死んでしまった

いまは平和に
なったが
けっして忘れては
いけないのさ

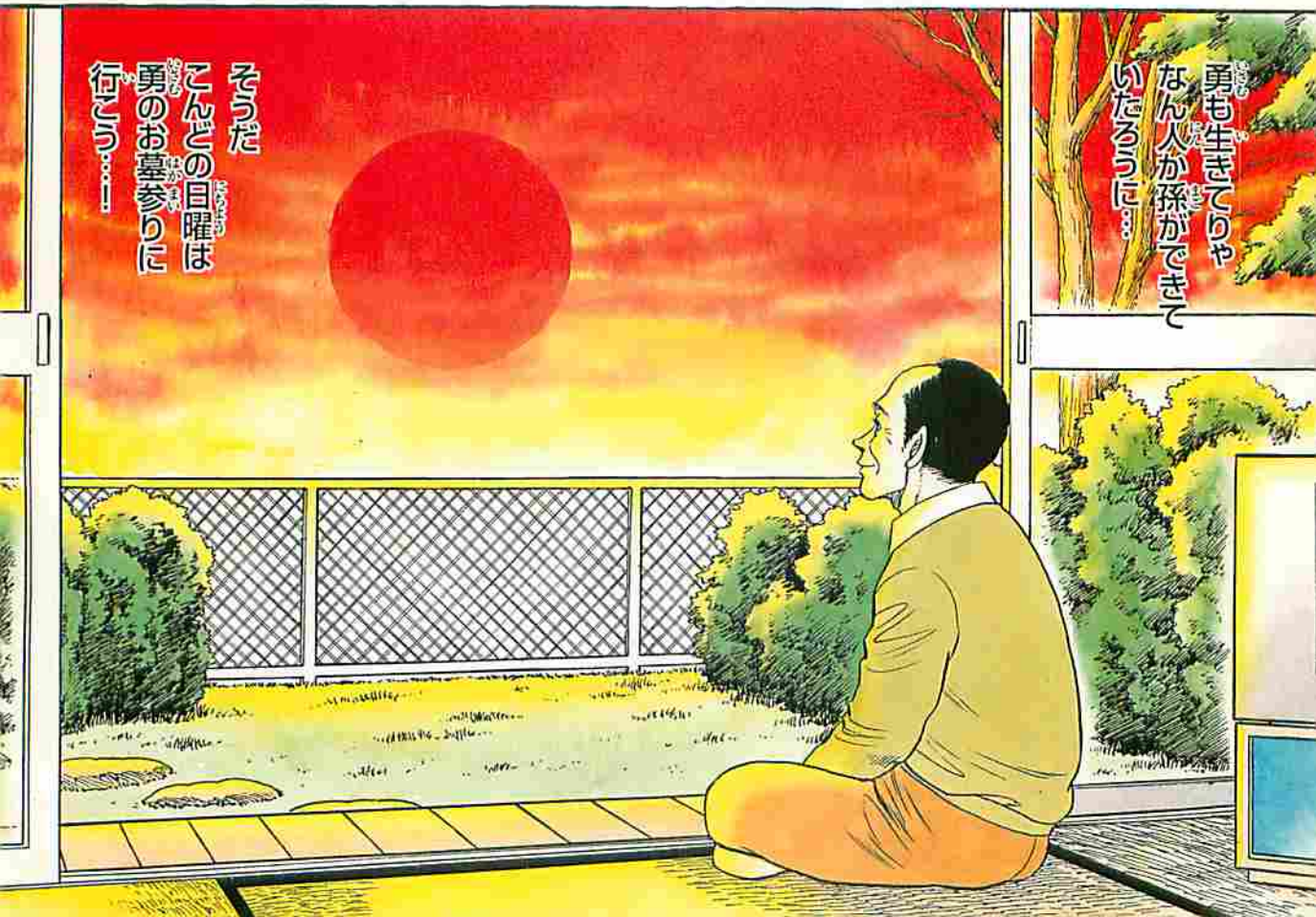
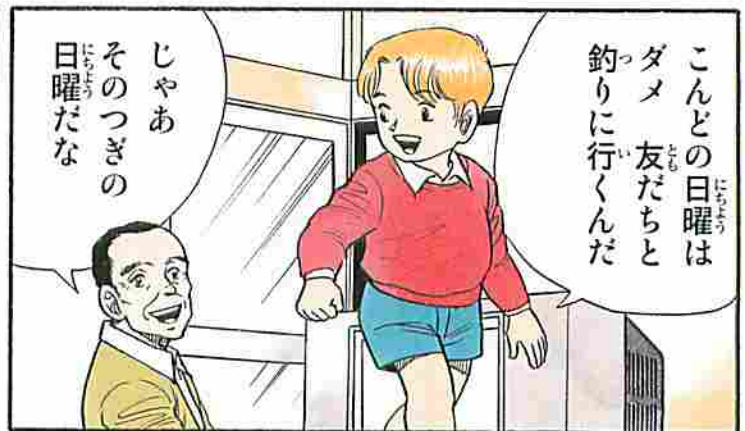
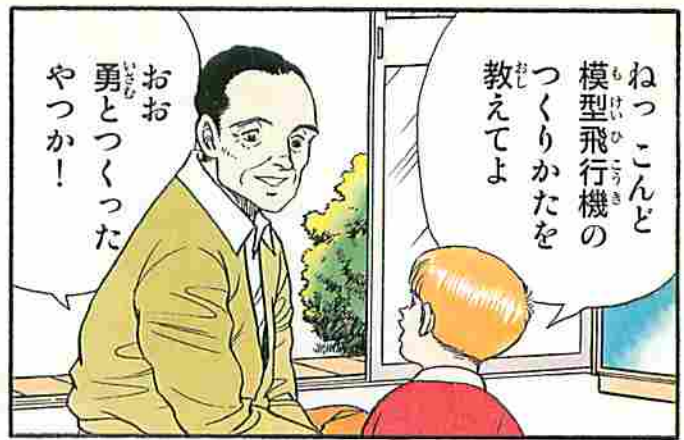


うん

ほくも
そう思う



死んだ勇や
ぎせいになった
人たちのことを



おもなできごと

- 1931年（昭和6年）満州事変が起こる。
このころから軍人が力もち始める。
- 1932年（昭和7年）海軍の将校らが犬養毅首相を暗殺する（5・15事件）。
政党政治が終わり、さらに軍人の力が強まる。
- 1933年（昭和8年）日本は国際連盟を脱退。
- 1936年（昭和11年）陸軍の青年将校たちが高橋是清蔵相らを暗殺する（2・26事件）。
- 1937年（昭和12年）日中戦争が始まる。
民主主義や自由主義の思想への弾圧が始まる。
- 1938年（昭和13年）国家総動員法の制定で総力戦体制が強まる。
- 1940年（昭和15年）日独伊三国同盟が結ばれる。
- 1941年（昭和16年）小学校が国民学校と名前が変わる。
日本の海軍がハワイの真珠湾を攻撃する。太平洋戦争が始まる。
- 1942年（昭和17年）アメリカ軍機が日本をはじめて空襲する。
日本の艦隊がミッドウェー海戦でやぶれる。
もの不足のために配給制度が強められる。
- 1943年（昭和18年）ガダルカナル島の日本軍が撤退をはじめる。
中学生以上の学生や女学生が武器をつくる工場などで働かされる。
大学生も学業のとちゅうで戦地に行くようになる（学徒出陣）。
- 1944年（昭和19年）大都市では国民学校の子どもの集団疎開が始まる。
サイパン島の日本軍が全滅する。
- 1945年（昭和20年）東京などが大きな空襲にあい、焼け野原になる。
広島・長崎に原子爆弾が落とされる。
日本はポツダム宣言を受け入れて降伏する。



▲軍隊式の教育をうける子どもたち（1942年ごろ）。



▲焼夷弾を落とすB29（1945年）。



▲空襲をうけて焼けた東京・八王子（1945年）。

空襲にあった町

1942年(昭和17)の4月から戦争が終わった1945年(昭和20)の8月までのあいだ、日本国内の以下のような場所が空襲にあいました。ひとつの場所で何回も空襲にあった町もあります。このほかにも規模の小さなもの、軍の施設が爆撃されたものなど、実際にはもっと多くの空襲がありました。この空襲で50万以上の人が亡くなりました。

<p>■北海道 函館市 小樽市 苫小牧市 網走市 留萌市 旭川市 室蘭市 釧路市 帯広市 根室市 本別町</p> <p>■青森県 青森市 八戸市</p> <p>■岩手県 盛岡市 花巻市 釜石市 宮古市 一関市</p> <p>■宮城県 仙台市 石巻市 塩釜市</p> <p>■秋田県 秋田市</p> <p>■山形県 酒田市</p> <p>■福島県 福島市 郡山市 いわき市</p> <p>■茨城県 水戸市 日立市 土浦市</p>	<p>高萩市</p> <p>■栃木県 宇都宮市 足利市 栃木市 鹿沼市</p> <p>■群馬県 前橋市 高崎市 桐生市 伊勢崎市 太田市</p> <p>■埼玉県 さいたま市 川越市 熊谷市 川口市</p> <p>■千葉県 千葉市 銚子市 船橋市 館山市 木更津市 松戸市</p> <p>■東京都 区部 八王子市 立川市 武蔵野市</p> <p>■神奈川県 横浜市 川崎市 平塚市 藤沢市 小田原市 横須賀市 鎌倉市</p>	<p>■新潟県 新潟市 長岡市</p> <p>■富山県 富山市 高岡市</p> <p>■石川県 金沢市</p> <p>■福井県 福井市 敦賀市</p> <p>■山梨県 甲府市</p> <p>■長野県 長野市 上田市</p> <p>■岐阜県 岐阜市 大垣市</p> <p>■静岡県 静岡市 浜松市 沼津市 清水市 磐田市 三島市 伊東市 島田市</p> <p>■愛知県 名古屋市 豊橋市 岡崎市 一宮市 瀬戸市 豊川市 半田市 春日井市</p>	<p>津島市</p> <p>■三重県 津市 四日市市 伊勢市 桑名市 上野市 鈴鹿市 松阪市</p> <p>■滋賀県 大津市 彦根市 長浜市</p> <p>■京都府 京都市 舞鶴市</p> <p>■大阪府 大阪市 堺市 豊中市 高槻市 吹田市 東大阪市 守口市 岸和田市 池田市 泉大津市 枚方市</p> <p>■兵庫県 神戸市 姫路市 尼崎市 明石市 西宮市 芦屋市 伊丹市 相生市</p>	<p>■奈良県 奈良市</p> <p>■和歌山県 和歌山市 海南市 有田市 御坊市 田辺市 新宮市 串本町 那智勝浦町</p> <p>■鳥取県 米子市</p> <p>■岡山県 岡山市 玉野市</p> <p>■広島県 広島市 呉市 福山市 尾道市</p> <p>■山口県 下関市 宇部市 山口市 徳山市 防府市 下松市 岩国市 小野田市 光市</p> <p>■徳島県 徳島市</p> <p>■香川県 高松市</p> <p>■愛媛県 松山市</p>	<p>今治市 宇和島市 八幡浜市 西条市 新居浜市</p> <p>■高知県 高知市</p> <p>■福岡県 北九州市 福岡市 大牟田市 久留米市</p> <p>■佐賀県 佐賀市</p> <p>■長崎県 長崎市 佐世保市 島原市 諫早市 大村市</p> <p>■熊本県 熊本市 荒尾市 宇土市 八代市 人吉市 水俣市</p> <p>■大分県 大分市 別府市 中津市 日田市 佐伯市</p> <p>■宮崎県 宮崎市 延岡市 日南市</p>	<p>都城市 日向市 高鍋町</p> <p>■鹿児島県 鹿児島市 川内市 串木野市 阿久根市 指宿市 国分市 西之表市 垂水市 鹿屋市 枕崎市 山川町 穎娃町 知覧町 東市来町 始良町 加治木町</p>
---	---	---	--	--	---	---

この物語は戦争の悲惨さを次の世代に伝えるために、東京大空襲の事実に基づいて制作したフィクションです。したがって、この物語に登場した人物や団体などは実在しません。

写真提供・毎日新聞社



この本を読んで、感想や作文をお寄せください

社団法人 日本戦災遺族会

〒102-0083 東京都千代田区麹町1-3 ダイアン麹町ビル4F TEL.03-3264-5287